ヨハネによる福音書18章

福音書に入るその前に・・・。

現在の食堂班の聖研には決定的に欠けているものがある。そう、それはすなわち、**「楽しさ」**である。楽しさが無ければ積極的に取り組むとはできない。楽しさというのはすべてのアクティビティに無くてはならない要素である。例えるならば、**F兄**にとっての**プロテイン**、**T兄**にとっての**アイドル**、**け兄**にとっての**アイマス**、**すた丼**にとっての**ニンニク**といったところだ。考えてみて欲しい。すた丼にニンニクが抜かれたその姿を。スタミナを削がれた哀れなその姿に、すた丼の面影と刺激臭は存在しない。それはもはや名も無き**「丼」**である。

11月に入り、1年生も入寮してから8ヶ月になる。そろそろ1年生も聖研について理解してきただろうし、課題も見えてきただろう。そこで、1年生も含めて振り返りと今後レポーターとして進行する参考にするために皆に聞きたい。

Q:楽しい聖研とはいったいどういうものなのか？聖研に求めるものは？

**♀：寮生間の相互理解が進むような質問。積極的な発言。**

**ｈ：クリスチャンじゃないなりに、彼らがどんな所に惹かれてるか、意味があるのかを知りたい。**

**「分からない質問を皆に投げて、結局分からなくて」みたいな流れがあって、答えがでないから最近楽しくないのかなって思う。レポーターが答えのある質問を持ってくる。**

**♪：聖研した後に、ポワポワする（がっちり分かった！ではなくて若干曖昧な感じ）ことを大事にしたい。だから答えがかっちり決まってる質問だけでないほうが良い。聖書の中にある歴史的、文化的側面を知りたい。知識的な面で。**

**目：今までの聖書研究は知識が足りなくて付いていくのがやっとで、中々楽しめなかったけど、**

**自分の考えは荒浜さんに近くて、分からなかったところが分かるようになるところに楽しみがあるのかなと思います。**

**＠：聖書研究自体はここの寮以外でもやったことがあって、他のところでは自発的な発言のみによって構成されるものだからもっと積極的に発言して欲しい。**

**もっとここでしかできないことがやりたい。聖書の知識が欲しいだけなら大学で学べばいいじゃない。こんなハイポテンシャルな人たちがいるんだから、もっと多角的な方面から攻めていきたい。**

**海外旅行した時とかに、やっぱり聖書の知識があると美術品を見るときにも役立つし、**

**塁：聖書という読み物自体が面白くない。原典はヘブル語やギリシャ語であるから、日本語に何か国語も経由してきてて本意を読み取れるのか。あと言葉尻を捉えるような質問に意味があるのか。**

**あと当てられるまで日和見で答えないのはどうかと思う。あと、特に一年生のレポーターの時ってテンポ悪いよね。**

**荒浜さんと古橋のどっちに近いか。**

**宮：解釈も、その上の質問も自分がしっかりと前提知識があるからこそ楽しいのであって、**

**特にレポーターは自分が一人でしっかり理解した後ならばどちらの方向に向かっていても楽しいレジュメを作れるんでは。**

**しっかりとレポーターが調べてくる。答えを出してくる。**

**インターネットだけじゃなくて注釈書など本を使用する。**

**歴史的知識に関しての本も玄関のところにある。**

**F：注釈書にかいてある事をそのまま使用する聖書研究はどうなの。**

**宮：注釈書の内容を意見のひとつとして捉えることは絶対に必要でしょ。**

**そりゃ丸パクはあれだけど。**

**ｈ：著者の思惑なんかもあるから、鵜呑みにするのはダメだけどしっかり読もう。**

**吉：水口先生からアドバイスありますか。**

**水：この時間は講義の時間ではなく、議論をするところ。研究発表の場ではない。**

**オリエンテーションでもいったが、聖書の読み方として「観察・解釈・適応」というバランスを持って聖書を読んでいくと非常に面白いというのがあります。**

**知識としては私のほうが多いでしょう。でも、皆さんの発言の中で、「あぁこういう風に読めるんだな」と気付かされることもある。**

**ただ、好き勝手なことをいえる場でもない。それを規制する枠組みが「観察・解釈・適応」である。**

**「観察」っていうのは、５W１Hみたいな質問。そもそもこの箇所に何が書いてあるのかを問う。時間が無かったら、レポーターが言ってもいいけど、一問くらいはあってもいいかもね。**

**「解釈」はさっきも話題になりましたね。**

**「適応」というのは、難しいもので「解釈」と表裏一体なんですね。解釈をしない適応というのは、別に聖書を使う必要はない。フリーディスカッションでもすればいんです。**

**注釈書については参考にする程度。まずは自分なりに観察・解釈した後に分からなければ、先人の知識を参考にするという謙虚さが必要ですよね。**

**SQについては、私の率直な感想としては「なんでこの質問がここで出てくるの」というのがあるわけです。その日の流れに沿わないような内容だと、意見は出るかもしれないけれど、意味は薄いかもしれないですね。**

**また、先週も話しましたが、聖書というのは短篇集ではなくて続きものですので、この章の中でどう言っているかだけでなく、他の章ではどう言っているのかということをしっかりと聖書研究の中で把握するのが必要です。**

Q:また、どうすれば上のような目的を遂げることができるだろうか？

（参考）聖書研究を行う理由について

* キリスト教について信仰、文化、考え方など様々な面で興味を持ついい機会となるということ。
* 同年代の人と聖書の内容を中心に、意見交換をすることにより多角的な物の見方を身につけられること。
* レポーターとしてレジュメなどを作成することや、聖研で発表することなどで、資料作成・プレゼン技術等、大学のゼミや社会で役立つ実務的な能力を磨くこと。

（出典：2011年度新歓聖研資料『聖書研究について』　村山透梧著　より一部改訂）

ということでようやく待ちに待った18章に入ります。

【裏切られ、逮捕される】（1～11節）

Q:6節、彼らはなぜ後退りして地に倒れたのか？

* 彼らとは？→兵士たち、祭司長たちやファリサイ派の遣わした下役たち

**宮：正直、そこまで深く考えずに、軍隊を引き連れて大勢でイエスを殺しに来たにも関わらず、イエスがはっきりと「自分がイエスだ」といったから驚いた。**

**♀：気圧されたのでは。**

**水：4節で「誰を探すのか」と聞いている。普通「探す」と言ったら、隠れている人を見つける行為になるが、ここではイエスがいきなり出てきたわけで、それは捕まえに来た人たちにとっては驚きだったのではないか。畏れみたいなもの。**

Q:8~9節、イエスがこの人々（兵士や下役たち）を去らせるように言ったのはなぜか？「あなたが与えて下さった人を、私は一人も失いませんでした」とは？

**＠：おそらく、ここで去らせなければ乱闘になって死人が出たから。**

**あなたが与えてくださった人、とは「弟子」＋「兵士」。**

**目：岡本とほぼ一緒です。「あなた」っていうのは勿論神。**

**H：17章の12節に書いてあることが成就した、っていう事なんでしょうね。**

**だから、イエスは「神様を信じている人を守る」っていう働きがあって、それをやり通したっていう話だと思う。**

**吉：津崎と岡本が言ったのは双方の怪我人が出ないように、って感じでしたがこれは弟子だけではと思いましたが、福島はどう？**

**F：僕も弟子だけ派ですが、そもそも「この人々」っていうのが弟子たちのことだけを指しているきがします。**

**塁：自分も「この人達」っていうのは「弟子」のことだと思う。次の節との繋がり的にも。**

**水：鶴井くんの方が答え。**

Q:11節、父がお与えになった杯とは？

**♪：これから起こる、キリストが十字架に架けられること。**

**その運命がもう決まってて、父から言われたんだから抗っちゃ駄目だ的な。**

**F：この後に、酸っぱい葡萄酒を飲む場面ありますよね。**

**吉：ということは、それも比喩に含まれてるかもしれないですね。**

**水：マタイ26章39・42節でもこうした杯の比喩が出てきますね。**

SQ：絶対に苦難が待ち構えているにも関わらず、その道を選択したことがありますか。

（就職？グループワークでリーダーに立候補）

まぁ別に自分のことでなくてもいいです。イエスのこの行動についてどう思ったかとか。

宮：イエスの「逃げたい」というような心情を見ると、ちょっと共感できるよね。

吉：仮に自分がイエスだったらどう？

宮：就職とかは自分のためだけど、ここは全然違うよね。

将来的に自分に返ってくるわけでもないのに、

♀：全世界の人を救えるって確信できるなら余裕で死ぬけど。

氏：でもすごく痛いのよ。

宮：あとみんなに感謝されるかも分からないんだよ。

♀：まぁ全知全能だから知ってるとは思うけど、誰も知ってくれなかったとしても死ぬけど。

吉：これは死生観とかに関わる問題ですよね。福島はどう？

F：普通に就職して普通に結婚したいですね。人のためには死にたくないです。

♪：僕も結婚したいですね。というか子どもが欲しいですね。

＠：結婚観は政木と同じですが、死生観については自分の生きた証として子孫を残したいです。死んだあとどうなるかは知りませんけど。

宮：死生観は、沢山お仕事なり人との関わりを通して、自分のことをより多くの人に認めてもらえるように死にたいです。

【イエス、大祭司のもとに連行される】（12～14節）

アンナス：引退した大祭司。影の実力者。

アンナスは結局イエスを訴える明確な証拠を見出すことができなかったので、大祭司カヤパの元にイエスを送り、形式的に訴えようとした。

【ペトロ、イエスを知らないと言う】（15～18節）

【大祭司、イエスを尋問する】（19～24節）

【ペトロ、重ねてイエスを知らないと言う】（25～27節）

Q:なぜペトロはイエスの弟子の一人ではないと言ったのか

* このときの状況を考えてみよう。イエスはどうなっていたか。

【ピラトから尋問される】（28～38節）

Q:28節、官邸に入ると汚れるのだろうか？

まとめ

水：古橋くんが言ってくれたことが興味深かったですね。

イエスが死刑を恐れていたのは確かですが、なぜ向かって行けたかというと「この死は無駄ではない、全世界の人を救うのだ」という目的意識があるから向かっていけたのではないか。

また、「無関係の人のためには死ねない」とさっき鶴居くんが言いましたが、キリストは全ての人を知っているわけですね。だから救うのではないでしょうか。

「この世が全ての終わりじゃない」という生き方がこの箇所によく現れていますよね。

死生観に関しては、さっき福島くんや政木くんが子どものことを言ってくれましたが、ぜひその気持ちを大事にして欲しいですね。

【死刑の判決を受ける】（39～40節）

****